

第 8 7 回東北地方交通審議会
船員部会 議事要録

平成 2 8 年 1 月 2 2 日
東北地方交通審議会
船員部会事務局

東北地方交通審議会

第87回船員部会

日 時 平成28年1月22日(金) 16:00~

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員 : 長谷部部会長、高橋(真)部会長代理(欠席)、
佐々木委員、船津委員
労働者委員 : 正路委員(欠席)、鈴木委員、高橋(雅)委員
使用者委員 : 佐藤委員(欠席)、鶴本委員(欠席)、湯村委員

運輸局 : 菅原海事振興部長、村木海事振興部次長
峯田船員労働環境・海技資格課長
鈴木船員労政課長、佐々木労政係長

議 題 (1) 船員の特定最低賃金の改正に係る東北地方交通審議会の意見に関する公示について

(2) 管内の雇用等の状況について

(3) その他

配付資料

- 資料1 船員の特定最低賃金の改正に係る東北地方交通審議会の意見に関する公示
- 資料2 船員職業安定業務取扱状況説明資料(平成27年11月分)
- 資料3 新規求人・求職数(東北管内:3年対比)
- 資料4 有効求人・求職数(東北管内:3年対比)
- 資料5 新規求人・求職数(全国)
- 資料6 有効求人・求職数(全国)
- 資料7 有効求人倍率(東北管内)
- 資料8 有効求人倍率(全国)
- 資料9 平成28年度東北地方交通審議会船員部会開催予定日(案)
- 資料10 新聞情報

(参考資料) 平成27年度管内水産高校等新規学卒の就職内定状況調査

議 事 概 要

◎開 会

【村木海事振興部次長】

〔第 8 7 回船員部会の成立状況について報告〕

〔配付資料確認〕

◎議 事

(1) 船員の特定最低賃金の改正に係る東北地方交通審議会の意見に関する公示について

【長谷部部会長】

それでは、議事に入ります。

お手元にあります議事次第の議題(1) 船員の特定最低賃金の改定に係る東北地方交通審議会の意見に関する公示について、事務局からご報告いただきます。

【鈴木船員労政課長】

では、資料1について説明いたします。

先月の船員部会で最低賃金の改正について議決が得られまして、それを東北地方交通審議会会長の方に説明し、会長からの答申が出ました。それが資料1になります。

先週の14日に、地交審会長名で答申の決裁があり、当日付で局長あてに改正の答申ということになります。

これを受けて、答申内容を官報公示で公告を出すことになりますが、その案文が船員の特定最低賃金の改正に係る地方交通審議会の意見に関する公示というものです。

これを官報公示しまして、公示になった日から15日の間に意見のある方は意見を出して下さいということになります。

意見等がなければ、公告期間後に最低賃金を決定いたしまして、その後に、また決定の官報公示を30日間して、それから効力発生という流れになっております。今の流れですと、3月末ぎりぎり効力発生予定というようになっております。資料1は以上です。

【長谷部部会長】

ありがとうございます。

何かご意見、ご質問等、ございますでしょうか。よろしいですか。はい、ありがとうございます。

(2) 管内の雇用等の状況について

【長谷部部会長】

それでは、ご了承いただいたということで、議題(2)の管内の雇用等の状況につきまして事務局からご報告をお願いします。

〔鈴木船員労政課長より資料2から資料8に基づき報告〕

【長谷部部会長】

ありがとうございます。ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

高橋(雅)委員はよろしいですか。

【高橋(雅)労働者委員】

今月、商船の方の求人が随分減っているんですが、何か考えられる原因というものは…。

【鈴木船員労政課長】

ちょっと分からないです。確かに新規求人が1件なので、ちょうど谷間だったのか、飛び抜けて少ないという感じはありますけど、原因の方はちょっと分からないです。

【長谷部部会長】

湯村委員、何か心当たりはございますか、雇う側として。

【湯村使用者委員】

思い当たりませんが…。

【長谷部部会長】

何か分かったら教えて下さい。よろしくお願いします。

【鈴木船員労政課長】

はい。

【長谷部部会長】

それでは、その他いかがでしょうか。

なければご了承いただいたということで、次に進みたいと思います。

(3) その他

【長谷部部会長】

議題の(3)のその他です。

最初に、資料の9につきまして、事務局の方から説明をお願いします。

【村木海事振興部次長】

それでは、私の方から説明させていただきます。

平成28年度東北地方交通審議会船員部会開催予定日(案)ですが、今年の4月から来年3月までの開催予定日を、機械的にですが、原則第4金曜日、ただし12月につきましては、23日が祝日ということもございまして、前日の木曜日の22日ということで設定させていただいております。

【長谷部部会長】

何かご意見、ご希望、今の時点で、これは動かした方がいいというようなアドバイス等ありましたら…。

【高橋(雅)労働者委員】

うちはないですね。

【長谷部部会長】

大丈夫ですか。じゃ、一応これをベースにして日程調整をお進め下さい。

【村木海事振興部次長】

もし帰られまして、例えば全日海さんでまとまって何か特別な行事がありますと

かそういうことがあれば、私の方にご連絡いただければと思います。

【長谷部部長】

はい、ありがとうございます。それでは、それは「OK」ですので…。

次に委員の皆さんからの情報提供ということで、労働者委員の方から何かございますか。

【鈴木労働者委員】

じゃ、私の方から。

八戸で現在海技講習会を開いております。航海4級、機関4級の…。

1月7日から3月7日までの間でやっています。人数的には航海が11名、機関の方が13名受講しています。以上です。

【長谷部部長】

ありがとうございます。例年と同じくらいですか。

【鈴木労働者委員】

例年より若干多いです。

【長谷部部長】

そうですか、若干。

ありがとうございます。他にはいかがですか。

【高橋(雅)労働者委員】

じゃ、私の方から。

皆さんもご存じだと思うんですが、昨年6月にロシアの方で北洋の流し網の禁止の法案が成立しまして、今年の1月1日からロシアの領海内では流し網ができなくなりましたということなんです。

昨年までは日本のさけ・ます流し網漁船が出漁していたんですけど、去年は小型船だけ出漁しまして、大型の100トン以上の流し網船は出漁を断念したんですが、国際的な漁業規制ということで、さけ・ます流し網に従事した漁船を対象に国際減船ということが昨年の12月に決定しまして、今後従事した漁業者の方々に国の方から補償があるということなんです。

それにあわせて、国際減船ということですので、それに従事した乗組員の方々に漁業者離職者の雇用対策として「国際協定の締結等に伴う漁業離職者に関する臨時措置法」というのが適用になると思うんですが、これで大型船が19隻対象になりまして、東北管内でいいますと4隻が対象になります。

19隻あるんですが、その乗組員というのが大方根室近辺、釧路、あと小名浜、気仙沼周辺が中心になります。結構東北の方々が乗船しておりますので、その時色々な手続で、運輸局の方でも考えられていると思うんですけど、スムーズな手続をお願いしたいと思います。以上です。

【長谷部部長】

ということで、要望ですか。

【高橋(雅)労働者委員】

はい、要望です。

【長谷部部長】

それでは、運輸局の方でよろしくをお願いします。

【高橋(雅)労働者委員】

あともう一件よろしいですか。

【長谷部部会長】

はい、どうぞ。

【高橋(雅)労働者委員】

もう一件が、今月26～28日の3日間、FOC・POCの全国一斉キャンペーンを行います。

東北に関しては、小名浜、仙台、塩釜、石巻に入港するFOC船を対象に査察活動を行いますので、よろしくお願いいたします。以上です。

【長谷部部会長】

どうもありがとうございます。情報としていただくということですね。

何かございますか。

【船津公益委員】

それでは、私の方から。

11月の船員部会の時に、湯村委員の方から若年船員の離職とかそういうのがあって、その状況は陸と比較した資料はないのかということでしたが、ちょうど私どもの海技教育機構がアンケートを集計している結果が出る直前だったんですけど、12月1日付で、一応これは内部資料ですので公開していないんですけど、数字が出てきました。結果から先に申し上げますと、厚労省が出している陸と全く同じ数字が出ました。船員だけ先に辞めるということじゃないと。私たちも感じていたのよりも、実は余り辞めていなかったというので、ちょっとびっくりしました。

簡単に数字だけお話ししておきますと、まず対象としたのが卒業1年前、3年前、5年前、つまり25年卒業、それから2年さかのぼって23、21年の卒業生を対象としまして、海上技術学校、それから短期大学校両方をカウントしました。

対象者が1,071名だったんです。回収率が非常に悪いんですけど、3割しか返ってこなかったというところに、有効性がちょっと、私は何と言っていいかというところがあるんですが、それで、まず移っていない。

最初の会社に、そのまま勤めているという者については、1年後というのはまだ殆どそうなんですけど9割、これは当たり前の話なんですけど、3年後、5年後ともに大体同じ数字出まして約6割、60%のまま3年後、5年後と、5年後特に下がる訳ではなくて同じだったんです。これは厚労省の数字も殆ど同じです。

それで、この60という数字を厚労省が出していて、高卒3年後というのが約60%で出ているんです。だから全く一緒なんですよ。それで、5年後が64だと。

厚労省の場合、その卒業した年によって若干違うのかもしれませんが、5年後の数字の方がかえって64というように多い結果がありますので、これに比べると4%位低かったかなと思います。

あと、厚労省が出している短大卒業者に対する数字については、3年後が59%ですから、これも殆ど一緒なんですね、約6割で、5年後が61ですからこの辺、高校も短大も大体6割という数字で、我々が出した数字と殆ど一緒というところですよ。

このうち、転職した者というのが96名いるんですけど、これがちょっと意外だ

ったんですが、96名の転職者の中で、1回辞めて、また海に戻ってきた「海から海」これが7割なんです。辞めて陸に行ったというのは2割しかいないんです。これは意外と少なかったです。

それから、中には陸に就職していて、「陸から海」というのも若干名はおります。3%ですけど、若干名は海に来たという者もおります。

ですから、思ったよりも、意外と辞めているけども、また、どこか船会社に入っているという傾向がありました。

因みに「会社を変えて良かったか」という質問に対しては、8割の者が「良かった」と言っています。「失敗した」というのは僅か2%しかいない。辞めた理由について、これは複数回答ですのでパーセンテージは高いんですけど、辞めた理由のトップが処遇とか待遇です。

給与とか含めて、最初提示された条件と違うというのが大体4割です。あと長期乗船というのは4分の1の25%。人間関係で辞めたというのが同じく25%、4分の1という数字が大体出ています。

因みに、辞めるに当たっての理由をいっぱい書いているんですが、公にできないようなのも書いております。

資料としては、まだ公開していないところがあります。

【長谷部部会長】

いずれ公開されるんですか。

【船津公益委員】

いや、これは内部アンケートですので、必要な時には数字だけ言わせていただくかもしれません。

【長谷部部会長】

でも、結果的には、殆どが海の会社に留まるという話ですよ。

【船津公益委員】

そうですね。辞めているけれども、また海に戻っていますので、若者の視点で言いますと、辞めない会社にしてほしいとか、辞める会社はちょっと問題があるんじゃないかなと。

入ってもすぐ辞める。半分位の者が辞めていくというのは、この数字からいくとちょっと多いんじゃないの、そう言われると、会社に問題があるんじゃないのという感じもいたします。

【長谷部部会長】

他の会社に移った時、満足している人が多いという話ですけど、給料が上がったりしているんですか。

【船津公益委員】

それについては、質問にはなかったんですけど、答えとして書いている者が若干おりました。給料で移ったという者もおりましたが…。

【長谷部部会長】

主流ではないと…。

【船津公益委員】

給料が下がって不満はあるけれども前の会社よりはいい、という者もいました。

【長谷部部会長】

何かご質問、ご意見等、貴重な情報ですが。

【船津公益委員】

あと、言うてはなんですけど、犯罪的なところも出てくるので、ちょっと公開できないことも…。

【鈴木船員労政課長】

昔ながらの仕事の教え方として、怒ったりたたいたりして教えるというそういう体質の会社がまだあるということですね。

【船津公益委員】

そういうことです。確かにそういうのも出てきます。それで無記名のアンケートなもので、誰か特定できないので、学校でも分からないです。

【鈴木船員労政課長】

運輸局の窓口でもたまにいます。殴られたとか言って…、だから辞めてきたと、その辺はあるでしょう。教える方も厳しく教えられて育ってきたので、同じような教え方を引き継いでいるのはあるんですけど、今の時代にもうそれは合わないの、そういう教え方は変えなきゃならないんだと思います。

あと、今の6割というのは、船員さん側からの定着率についての話なので、今度会社側から見た場合に、辞めていく船員がいる会社は、いっぱい辞めていくんですよ。いい会社にいっぱい集まっていくんですよ。いい会社の方は定着率が60でなくてもっと70とかになっているんでしょう。それで、悪い会社の方は40とか30とか、そういうことですよね。

【船津公益委員】

そうだと思います。

ですから、定着率を聞いて「うちは3割しか」と言ったら、ここは相当悪いところだなと。

【鈴木船員労政課長】

そういうことですよね。会社に問題があるということです。

【湯村使用者委員】

会社も当然あるでしょうし、船種によっても、随分仕事の内容が変わってくるんですよ。若い卒業生は、自動車運搬船とかオイルタンカーとかいった大手が運航している大きい船に乗りたがる傾向があると思うんですけど、実際のところ、自動車専用船なんかは非常に荷役時間が短くて、接岸してもあっという間に荷役終わって、すぐに出航しなきゃいけないんですよ。

陸上に上がって、少し買い物でもしようかとか、息抜きしようかというような時間もなくて、とにかくもう、すごい忙しい思いをするんだそうです。

オイルタンカーの場合には、色々な安全規制があって厳しくて、船内もなかなか窮屈な生活を強いられるようなところがあるんですけど、そういう船もあれば、荷役時間がかかる船だと、今日入って明日出るということで、今晚上陸して色々遊んだりもできるというような、同じ船でも船の種類によって全然違ってくるので、自動車船、良かろうと思って乗船したけども、なかなか厳しいのもっと楽に乗れる船はないものだろうかというように転船を考える人もいますね。

【長谷部部会長】

離職率が高い会社が、必ずしもブラック企業ではないということですね。

【湯村使用者委員】

そういうのも当然あると思うので…。

【長谷部部会長】

大まかな数字ですのでひとり歩きしないように、我々が共有情報ということで…。

はい、貴重な情報をありがとうございます。

他にございますでしょうか。

【湯村使用者委員】

内航の厳しい状況をご理解いただくために、11月分の内航の主要オペレーター60社の輸送実績が出ましたのでご紹介します。

これは前年同月比で、貨物船の部門では10%減と非常に大きく落ち込みました。品目別では、鉄鋼が10%減、自動車は6%減、石灰石等原料が15%減、セメントが11%減、石炭・コークスについては19%減と、非常に大きくマイナスになっています。

これらの原因としては、鉄鋼であれば中国の安値輸出攻勢の影響であったり、自動車については消費税増税後の販売不振が未だに続いている状況と、あと原料とセメント等については、現場の工事の遅れ等の原因があるということだそうです。

輸送船につきましては、原油安の傾向が下支えするような格好で、僅かですけど1%増という数字があります。

あともう一つ、内航海運のPR活動をご紹介したいと思います。非常に好評だったということで、業界紙情報なんですけど、ちょっとご紹介します。

近畿内航船員対策協議会というところがあるんですが、そこが主導で大阪地区の内航事業者の有志により児童養護施設で海の仕事の説明会を行いました。これは、昨年8月と12月と今のところ2回開催されているんですが、内航のPRのDVDを20分ほど鑑賞してもらって、あとはパワーポイントで内航船員の仕事について、やはり20分位説明を行い、その後質疑応答というような形をとったようですが、子供たちからは是非やってみたい仕事だというような意欲的な声が多数ありまして、施設の管理者からも「子供たちの進路の選択肢の幅が広がった。ありがとう。」ということで、感謝の手紙までいただいているということです。

児童養護施設というのは18歳で強制卒所しなきゃいけないというような事情があって、一般の18歳の世間の子供に比べると非常に自立心が強く、何倍も強い自立心を持っているということですが、その反面、両親がいなかったり色々な事情があるので、世間との繋がりが薄くて、自立はしたいんだけど、世の中にどんな仕事があるのか分からないというようなことがあるらしく、そういう中で、内航に是非入ってほしいんですけど、内航の説明をすることで世の中にはこんな仕事もあったのかということで「自分たちの選択肢が広がっていくという意味でも、子供たちにとってもいいことだった。」という感想を述べております。

内航としては、この有力な若年船員ソースとして、この養護施設につきましては期待しているので、こういう説明会を今後も継続していきたいというようなことだそうです。

【長谷部部会長】

どうもありがとうございます。大変な状況です、分かりました。

すみません、先ほどの輸送実績等を含めて、これはいつから、いつの時期ですか。

【湯村使用者委員】

これは去年の11月です。

【長谷部部会長】

11月、分かりました。ありがとうございます。

【湯村使用者委員】

10月も5%位だと思えますけど、11月は更に落ち込んで10%。

【長谷部部会長】

これは前月比ですか。

【湯村使用者委員】

前年同月比です。

【長谷部部会長】

前年同月比、ありがとうございます。

何か他にございますか。

【鈴木船員労政課長】

今の近畿の話に関連してなんですけど、近畿の方が話がとても上手だということを知ったので、2月24日にいわき海星高校で出前講座をやります。

その講師に近畿の船対協の会長の上窪さんをお願いしまして、去年からIMOの委員にも任命されていますので、快く引き受けていただいて、学校の方も2時限分、50分・50分なのでトータルで1時間40分時間とっていただいて、1年生、2年生を対象に30人位をめぐりに出前講座ということで、DVDと上窪さんのお話をさせていただくということで、昨日今日決定しました。

【湯村使用者委員】

そうですか。

それから、9月に業界の船員対策委員会がありまして、その席上に上窪さんも出席されていて、その時にこんなことを考えているんだけど、どうだろうという話がこの養護施設の話だったんですね。それから色々あって8月に実現しましたということで。

【鈴木船員労政課長】

年間10回以上、そういう出前講座をしているんですね。

【湯村使用者委員】

ああ、そうですね。

【鈴木船員労政課長】

内航船員対策ということなんですけど、運輸局としては、まず水産高校の子供たちに内航の色々な情報を与えて、漁船の外にこういうのもありますよというのを紹介して、結果として内航船員が増えてくれればいいなという一環として、海星高校でやります。

上窪さんの話がうまいということで、きつとうまくいくと思うんですけど、私も行って見てこようと思っています。

【湯村使用者委員】

それは、東北の水産高校生をどこか1ヶ所に集めて…。

【鈴木船員労政課長】

いや、まずはいわき海星高校をターゲットにして。

【長谷部部会長】

知らない情報を教えていただきましてありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

ありませんでしたら、本日の議事は終了させていただきたいと思います。

次回の船員部会は2月26日金曜日の15時30分からとなります。会場はここで開催いたします。

◎閉 会